

関係各位

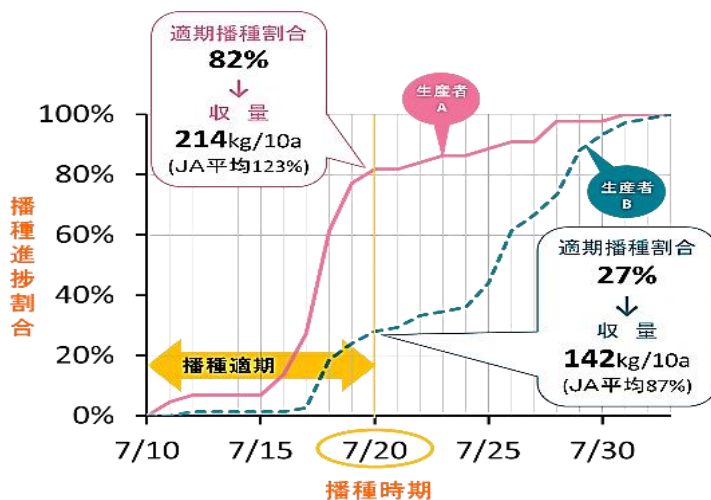
福岡県米・麦・大豆づくり推進協議会
(事務局：J A 福岡中央会 担い手・営農サポートセンター)
(公 印 省 略)

営農情報 5

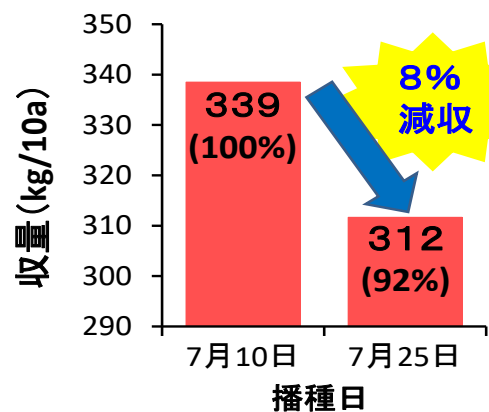
大豆の収量向上は「適期播種」から！

大豆の収量向上には、まず「適期播種」が重要です。

適期である 7 月 20 日までに播種を完了するように、事前に作業計画を立てましょう。



播種日による収量の違い(10 年平均)



(農林業総合試験場データ)

適期に播種を完了するために

- ① 播種近くまで耕起しない。ただし、播種前に雑草が多いほ場は対策に留意する。
- ② 適度な土壌条件となったら、速やかに播種する。
- ③ ニ工程播種の耕起～播種は、時間を置かずに「組作業」で行う。
- ④ 降雨後、速やかに播種できる部分浅耕等の一工程播種を活用する。

※部分浅耕一工程播種については、別添マニュアルを参照

大豆栽培の留意事項

(1) 排水対策

- ・ 周囲溝、弾丸暗きよは早めに施工する（排水効果は、暗きよより周囲溝の方が高い）。
- ・ ほ場中央にも明きよを施工すると、排水はより改善される。
- ・ 周囲溝や明きよは確実に排水口に接続するよう施工する。

周囲溝・明きよ施工時の注意点

確実に排水口に接続する！
(接続していないと排水効果が劣る)



排水口

明きよ
(周囲溝)

ほ場中央に施工すると
排水がより改善

(2) 土づくり対策

- ・大豆作付頻度が高まるほど、地力低下や土壌が硬くなる傾向があるため、「麦わらすき込み」や堆肥投入で地力低下を緩和する。
- ・やわらかい土づくりにより根粒菌の活性が高まり、大豆の生育も良好になる。

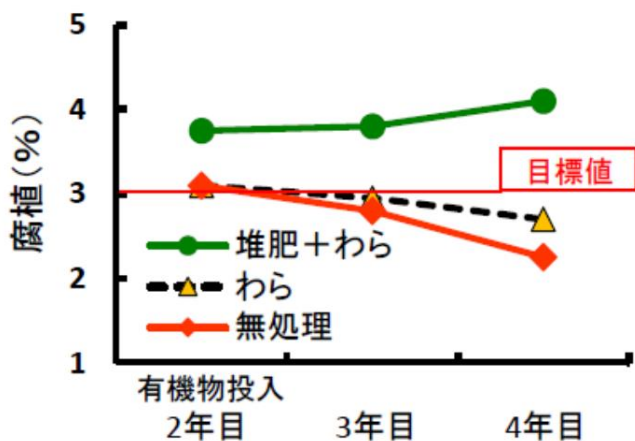


図 有機物の毎年投入による腐植の変化
(福岡県農林業総合試験場)

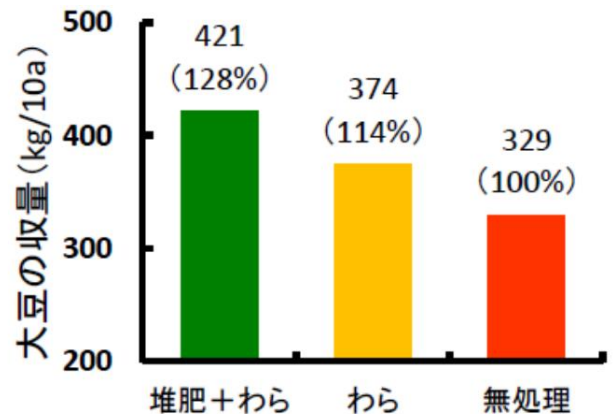


図 施用した有機物の違いによる大豆の収量差
※大豆-麦連作ほ場に5年連続で施用した場合
(福岡県農林業総合試験場)

(3) 種子消毒の励行

- ・栽培暦の薬剤を参考にして必ず実施する（紫斑病対策、出芽時の腐敗防止）。

(4) 播種のポイント

- ・梅雨時期の播種は、うね立て播種を基本とする。
- ・播種時期が遅くなるほど、株間を狭く播種量を増やし、出芽本数を確保する。
(必ず、播種量の調整を実施する)。

播種時期	7月1～10日	7月11～20日	7月21～31日
10a当たりの播種量 (kg)	2.9～3.4	4.3～5.7	7.9

- ・土壌の水分条件や播種後の天気予報に応じて、播種の深さ、鎮圧を調整する。

基準	土壌が乾いている場合 (梅雨明け後等、しばらく降雨がない天気予報)
3cm	基準よりやや深く (5～6cm) + 鎮圧 (麦用の鎮圧ローラー活用)

(5) 雑草対策の徹底

- ・土壌処理除草剤は「播種後～大豆出芽前」に必ず散布する。
- ・雑草の多い場合は、播種前に非選択性の茎葉処理除草剤を散布する。
- ・播種が早い場合は、雑草の発生時期も早いため、除草時期に注意する。

(6) 梅雨明け後の乾燥対策

- ・梅雨明け後、天気予報でしばらく降雨がない場合は、本暗きよの栓を閉めて、乾燥害を防ぐ。